

「Rural Community Engaged Medical Education with social distancing: How symbiotic relationships enable program continuity despite distance」, Trevor Gibbs 教授 (Association for Medical Education in Europe) に「The Social Accountability of Medical Schools: A possibility or just a dream?」, また特別講演として鈴木康

之前理事長から「パンデミックを乗り越え、新たな医療人育成へ」, 小西靖彦前副理事長から「医学教育学会が目指すもの」というテーマでオンデマンドの動画配信を行った。

学内外, 学会関係者の皆様の多くのご支援により大会開催に漕ぎ着けたことに深くお礼申し上げます。

4. 第53回日本医学教育学会大会

岡崎 仁昭 (自治医科大学医学部医学教育センター)

2021年7月30日・7月31日, 自治医科大学学長 永井良三を大会長として, 「活私開公: コロナ時代のグローバル医学教育」のテーマのもと, 第53回日本医学教育学会大会が開催された。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり, 当初はハイブリッド形式での開催を検討していたが, 2021年1月に完全オンライン開催へと方針を定め, 準備を行った。

本学会として, 学会大会を完全オンラインで開催することは初の試みであった。不慣れな運営もあり, 参加者の方々にとってご不便をおかけしてしまったこともあったかと思われる。一方, その中でも, 総参加者数 1,175 名 (会員 790 名, 非会員 147 名, 学生・大学院生・研修医 141 名, その他 97 名) のもと, プレカンファレンス・ポストカンファレンスの2日間を含めた4日間の大会を開催することができた。また, ライブディスカッション 78 題, オンデマンド発表 239 題の他, シンポジウム 21 件, ワークショップ 19 件が実施された (国際セッションを含む)。これらは, ひとえに参加者 1 名 1 名の協力があるからこそである。この場を借りて, 改めて御礼を申し上げたい。

第53回大会の開催にあたっては, 完全オンライン開催となった一方で, 様々な取り組みに挑戦してきた。例えば, 以下のような項目である。

(1) 事前参加登録・支払の導入, (2) 海外演者を含む 4 名の招請講演や日韓台合同シンポジウムなどの教育セッションの充実化, (3) 口演・ポスターという区分に変わる, ライブディスカッション・オンデマンドという一般演題, (4) 医学教育アカデミー賞や交流スペースなど, 懇親会に変わる親睦の場の検討, (5) 学生・研修医交流セッションの導入。

これらの準備にあたっては, 学内の実行委員の先生方, また本学会の学術大会運営委員会の先生方をはじめとする多くのご協力があったからこそであった。改めて感謝を申し上げたい。

今後の学会大会においても, 対面・オンライン・ハイブリッド等, 学会大会の形式によっても様々な特徴が生みだされると思われる。日本医学教育学会という教育を扱う学会であればこそ, 学会大会という場によって生み出される参加者の「学び」についても議論が継続され, より質の高い形へと発展していくことを願ってやまない。

